平昌オリンピックについて

平成30年3月9日
ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ･ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ
及びﾗｸﾞﾋﾞｰﾜｰﾙﾄﾞｶｯﾌﾟ
推進対策特別委員会

Ⅰ　平昌オリンピックについて

○ 大会の概要

・会　　期：平成３０年２月９日（金）～２５日（日）【１７日間】
・競技・種目数：７競技１０２種目
・日 本 選 手 団：１２４名（６競技）、関係者１４５名

○ 都の派遣職員数（オリンピック・パラリンピック準備局）

・ジャパンハウスの運営　　１４名
・オブザーバープログラム　　１３名
・大会運営状況の視察　　７名

Ⅱ　平昌オリンピックにおける取組

○ ＴＯＫＹＯ 2020 ＪＡＰＡＮ ＨＯＵＳＥ

・都と組織委員会が江陵オリンピックパーク内に、開催都市東京及び東京2020大会のＰＲを目的として設置
・THE TOKYO TRAVELLERS コーナー、追加競技イメージフォトコーナー、日本文化体験コーナーなど、体験型コンテンツやＰＲ展示コーナーを実施
・期間中、１２万人を超える、観戦者や大会関係者、メディア等が来場するとともに、国内外の多くの取材を受け、大きな注目を集めた

施設の外観

THE TOKYO TRAVELLERS ｺｰﾅｰ

日本文化体験ｺｰﾅｰ

（参考）　東京2020ライブサイトin2018

・大会期間中、大会開催気運の盛り上げを目的として都内及び被災地でライブサイトを実施

（都内）
・都立井の頭恩賜公園　西園
・都立シンボルプロムナード公園
　イーストプロムナード・石と光の広場

（被災地）
・ＪＲ仙台駅２階ステンドグラス前（宮城県）
・郡山駅西口駅前広場（福島県）
・盛岡駅前滝の広場（岩手県）

井の頭会場

・大型ビジョンでの大会生中継、地域団体や大学生等によるステージプログラム、競技体験等を行い、会場全体で約１２万人が来場

Ⅲ　オリンピック･オブザーバープログラム

○ プログラム参加の概要

・ＩＯＣ、平昌組織委員会が大会時に実施する学習プログラムであり、大会の運営の実際を現地で直に学ぶための機会
・平昌大会は冬季大会であるが、開催都市として都が直接運営に携わる輸送、セキュリティなどの分野を中心に、49プログラム中27プログラムに参加し、知見を習得

○ プログラムを通じて得られた主な知見

（１）輸送

・バスは全体で約2,000台、乗用車は約2,800台で運用
・平昌地域、江陵地域でオリンピックレーンを設置。江陵地域では一部でナンバー規制を導入
・開会式終了後、会場周辺で渋滞・混乱が発生。周辺道路を予定より早く交通規制したことなどが発端

バスデポ全景

（２）セキュリティ

・１日の最大セキュリティ要員18,380人（韓国警察庁13,000人、韓国軍5,240人、民間警備員140人）
・役割分担
　国：テロ対策や包括的な警備計画を策定
　地方自治体：施設建設中の安全管理、災害への対応
　平昌組織委員会：会場内で民間警備員によるパトロール、アクセスコントロール

江陵オリンピックパークの
手荷物検査所

（３）ボランティア

・約15,000人の大会ボランティア、約1,500人の都市ボランティアが活躍
・大会ボランティアは、約2,000人の不参加があったが、当初の予定人数は確保
・ボランティアには、ユニフォーム、活動中の食事または食費を提供。山間部であることから、遠方からの参加者には宿泊施設等を用意

江陵駅内の
都市ボランティア

（４）飲食

・オリンピック・パラリンピックを合わせて550万食を提供（選手、ボランティア、観客、メディア等）
・選手村メインダイニングでは、食材の産地表示を行うとともに、韓国料理も提供し、極力国内食材を活用
・観客用レストランでは、ラーメンの器など一部食器にリユース食器を使用

選手村メインダイニング